

## 地域医療構想を踏まえた「公的医療機関等2025プラン」「新公立病院改革プラン」対象病院

		病院名	対象理由	所在区市
区 東 北 部	1	東京女子医科大学東医療センター	地域医療支援病院	荒川区
	2	東部地域病院	地域医療支援病院	葛飾区
	3	葛飾赤十字産院	日本赤十字社	葛飾区

(キーワード1:顔の見える関係)

- 患者支援センター(仮称)を設置し、MSW、看護師、事務職員を配置して、退院支援を強化する。入院前から患者情報を把握し、在宅医療、介護や他医療機関との連携を強化すべく検討を行っている。
- シームレスな連携が出来るよう、介護側や開業医をはじめとした他医療機関とのコミュニケーションを促進して、退院後の介護や在宅移行のフォロー体制を強化する。
- また、回復期病床、慢性期病床を持つ医療機関への移行を推進する。

以上のためにも、介護や地区医師会との勉強会や研修会を緊密に実施する。

(キーワード2:情報共有にあたってのルール作り)

- 患者支援センター(仮称)が、連携する施設に必要な情報を事前に把握し、退院後の情報の提供が十分に行える体制を整備する。

((キーワード3:住民理解)

- 地域住民を対象にした医療連携の勉強会やホームページや冊子によって、早期退院、そして介護施設、他医療機関への転院について、広報活動を推進する。

1. 地域の考え方と連携

全体としては区東北部の患者が中心であるが、診療科の特性によって受診患者の地域特性が異なっている。なお、埼玉県在住の患者もいることから、区東北部のほか、埼玉県の医療施設との連携も必須である。

2. 近隣と遠方の関係機関連携

紹介、逆紹介ともに患者住所地の医療機関や介護施設との連携が多いことから、遠方地であっても患者のニーズを把握し、連携を行う。

### 3. 地域包括ケア病棟の役割

### 4. 病床機能の役割分担

現在の高度急性期医療を維持する。既に2017年8月に高度急性期医療に特化するため、病棟再編を実施し45床削減した。

今後、増加が見込まれる高度手術や集中治療を最適化する。今後、手術室の増室、集中治療室、ハイケアユニット、脳卒中ケアユニットなどの治療室比率を高める。

区東北部で唯一の三次救急施設という特長を生かし、救急医療対応を充実する。

### 5. 他の医療機関に求めること

以下の2点を考えている。

- かかりつけ医と当院の2人主治医制の推進。
- 高度急性期医療後の回復期患者、慢性期患者のスムーズな移行。

医療機関名 葛飾赤十字産院 (区東北部)

**(キーワード1：顔の見える関係)**

当院は、産科・婦人科・小児科の病院ですが、地域の医療機関等との関係は良好な関係にあると考えています。現在、院内の組織として地域医療連携を担当する部署の設置を検討しており、一層「顔の見える関係」づくりを目指してまいりたいと考えています。

**(キーワード2：情報共有にあたってのルール作り)**

医療機関における「情報共有にあたってのルール作り」については、今後、構想区域をはじめ、各医療機関との情報、連携を密にしながら策定を目指してまいりたいと考えています。

**(キーワード3：住民理解)**

「住民理解」については、地域の方々に当院を理解していただくとともに、当院が地域の状況を理解し一層の貢献ができるよう努めてまいりたいと考えています。特に赤十字の産院として、周産期医療、災害医療への貢献を積極的に果たしてまいりたいと考えています。

1 「地域」としてどの範囲を意識していますか。また、その範囲が構想区域外に及ぶ場合、関係機関等と連携するための取組を何か行っていますか。

「地域」は主に足立区、荒川区、葛飾区、江戸川区を意識しています。当院が所在する区東北部（足立区、荒川区、葛飾区）以外の江戸川区については、個別の医療機関との連携が中心となっています。

2 近隣の関係機関と遠方の関係機関、それぞれにおける連携方法等の違いについて記入してください。

近隣の関係機関に対しては、直接訪問することもあります。現状では、連携方法に大きな違いはない状況です。

3 地域包括ケア病棟を有している、又は有する予定の場合、ポストアキュートとして使っているか、サブアキュートとして使っているか、更に今後どのように使用していく予定かについても記入してください。

(地域包括ケア病棟がない、又は有する予定がない場合は記入不要です。)

地域包括ケア病棟の予定はありません。

4 病床機能を分類するに当たっての根拠や理由について記入してください。

2025年に向けて、許可病床数は104床(現在113床)を予定しています。内訳は高度急性期(36床)、急性期(68床)であり、高度急性期はNICU12床、GCU24床を予定しています。

5 自院の持つ機能を活かすために、他の医療機関に求めることについて記入してください。

今後は「顔の見える関係」を構築し、情報共有に努めてまいりたいと存じますので、忌憚のないご意見、ご指導の程よろしくお願い申し上げます。

医療機関名 公益財団法人東京都保健医療公社 東部地域病院

(キーワード1 : 顔の見える関係) ※各キーワードに対し、自院の方向性や取組を記載

- 当院は、地域医療支援病院（平成10年9月承認）として連携医と共同診療を実施するほか、医療機関訪問などを積極的に実施し、顔の見える連携体制を構築している。
- また、入院前から看護師、MSWが適宜介入し、必要に応じて在宅医やケアマネジャー、介護事業所、訪問看護師等を含めて退院支援カンファレンスや定期的な意見交換会を実施して「顔の見える関係」を構築し、円滑な在宅移行支援を目指し、活動している。

(キーワード2 : 情報共有にあたってのルール作り)

- 地域の医療機関や医師会、自治体等が参加する運営協議会等を開催し、情報交換をしながら外部の意見を取り入れる仕組みを有しているとともに、当院の実績や活動について承認いただきながら病院運営を行っている。
- 脳血管疾患に関する検査結果（画像）をICTを用いて都立墨東病院（区東部）と共有できる診療連携の仕組みを導入検討中である。

(キーワード3 : 住民理解)

- 最新の医療事情を基に地域住民に役立つ情報を提供し、併せて当院の役割やシステムの周知を図るため、毎年公開セミナーや「看護の日」のイベントを開催している。

1 「地域」としてどの範囲を意識していますか。また、その範囲が構想区域外に及ぶ場合、関係機関等と連携するための取組を何か行っていますか。

- 当院が所在する区東北部（葛飾区、足立区、荒川区）のほか、近隣の江戸川区、墨田区、江東区を加えた六地区を範囲として考える。
- 上記、六地区と連携を推進するため、年4回「六地区協議会」を開催し各医師会長と情報共有しながら、当院の運営について意見調整を行っている。

2 近隣の関係機関と遠方の関係機関、それぞれにおける連携方法等の違いについて記入してください。

- 近隣と遠方の関係機関との連携方法等に特に違いはない。

## 地域医療調整会議 事前提出資料

3 地域包括ケア病棟を有している、又は有する予定の場合、ポストアキュートとして使っているか、サブアキュートとして使っているか、更に今後どのように使用していく予定かについても記入してください。

(地域包括ケア病棟がない、又は所有する予定がない場合は記入不要です。)

- 当院は地域包括ケア病棟を有しておらず、今後についても地域包括ケア病棟を有する予定はない。

4 病床機能を分類するに当たっての根拠や理由について記入してください。

- 合計 314 床のうち、I C U の 6 床を高度急性期、その他 308 床を急性期病床としている。2025 年度に向けては地域医療調整会議や地域のニーズを踏まえ、今後検討する。

5 自院の持つ機能を活かすために、他の医療機関に求めることについて記入してください。

- 区東北部は中小病院が多いため、お互いの医療機能を分担し、補い合うことが必要である。
- 当院は、地域の急性期医療を担う中核病院として必要な医療機能の充実・強化を図るとともに、2025 年に向けた地域包括ケアシステムの構築を支援し、他の医療機関と連携を図りたい。